

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270200932		
法人名	特定非営利活動法人 縁 会		
事業所名	グループホーム ゆかりの里		
所在地	千葉県花見川区千種町380-6		
自己評価作成日	平成24年1月8日	評価結果市町村受理日	平成24年3月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kaigo.chibakenshakyō.com/kaigosip/Top.do">http://kaigo.chibakenshakyō.com/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生町1107-7		
訪問調査日	平成24年1月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

居室も南向きと東向きで日当たりも良く明るい、中庭より採光を取り入れたホールは明るく暖かい。ゆとりのある住環境の中で静かで落ち着いた生活をしている。昨年まで模索していた医療行為に対しては厚生労働省は介護職員にも実質的違法性阻却として見直すことを決定し本研修が24年1月より開始された。ゆかりの里においても業務が厳しい中、学ばせて頂いております。入居者にとってはここが安心できる場所として最期まで尊厳を持って暮らしていただく事に家族も含めて喜んでおりますが、学ぶことにより人の命を預かる仕事は人の命を失うことにも繋がる。軽い気持ちではいけないと戒めたり医療行為に対する考えかたは立場によってはまちまちであり、受講生100人の方達と学びあっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームはこれまでも看取りに力を入れてきている。管理者は今年度、「介護職員等によるたんの吸引等の実施のための研修」を受講中であり、ターミナルケアについて万全の態勢を整えつつある。ホームは地域にも溶け込んでおり、毎年恒例となっている100円セールと呼ばれる全品100円のフリーマーケットには地域から多数の人が訪れる。また、昨年のクリスマス会には、近隣にチラシをポスティングし、その結果、60余名が参加した実績もある。介護計画を作成する際の「担当者会議」には入居者本人や家族も出席しており、意見や要望を聞き、介護計画に反映させている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ゆかりの里の理念は職員が馴染やすい様に事務所に掲示し基本的人権の尊重・家庭的な環境・生き甲斐支援等、会議を通して理念に立ち返り、日々現状を模索しながら進めている。	基本的人権の尊重などの理念は日々のケアで迷った時に、管理者や職員は理念を振り返り確認している。職員にも理念が自分のものとして理解されていることが伺えた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との交流は毎日の散歩を通して挨拶を交わしたり、100円セールふれあい広場では近隣の方に声かけられ嬉しそうに話し、日頃より交流を持っている。	毎年恒例となっている100円セールと呼ばれる全品100円のフリーマーケットには地域から多数の人が訪れる。また、今年のクリスマス会には、近隣にチラシをポスティングし、その結果、60余名が参加した。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	やまびこ推進会議の中でも発信し、ボランティアの方達、地域の団体様にも説明し理解を頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	次回の議題を募り要望に応じた話し合いをしている。(例・職員のストレス、災害対策等)	運営推進会議にはホームの前にある高校の校長先生や民生委員、地域包括支援センター職員や地域住民も参加している。内容も看取りや、防災についてなど、充実している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村には何かある毎に相談している。特に医療行為・転倒の危険性の方(安心ケアセンターに相談の旨アドバイス有り)又スプリンクラーの進捗状況・共用型デイサービスの様子等……	これまでもホームの看取りに対する考えを伝えるため、市町村とは密に連絡を取ってきている。担当者には何かあると相談できる関係性ができている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は代替案等出しながら一丸となって取り組む。転倒の可能性の方には「座っていて」と言っても理解出来ない、なら一緒にマンツウマンで室内を歩く、散歩に出て太陽を沢山浴びる等工夫している。	身体拘束は施錠を含めていない。外部、内部の研修で職員に徹底するように努めており、管理者も職員もよく理解していることが伺える。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	前回よりは少なくなったが一寸したことで他者にきつい言葉を浴びせる入居者に職員は虐待に値すると工夫し遠ざけたりその場面の環境を変え乍ら対応している。又入浴時に身体的特変がないか調べている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見受任後もボランティアとして関わって下さり入居者の話し相手、やまびこ推進会議でも活動して下さり家族からも好評であった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約についてある程度職員も理解できるように説明し、家族に聞かれた場合も応えられるようにしている。説明は十分に行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	最近家族より広報についてご意見があった。折角の広報誌カラーにしてはどうか？の意見にカラーと2色刷り併用して配布することとした。	運営推進会議に家族や入居者本人の出席がある。また、家族の訪問時に声をかけたり、入居者自身には日常の会話の中で意見を聞き、反映させるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ご家族・職員間の提案は会議で話し合い、毎月のお知らせで報告している。身元引受人以外の家族にも要望があれば行事のお知らせ等連絡する事とした。	職員が夜勤の時には、管理者はゆっくり時間をとって話を聞くように努めている。また、定期的実施されている会議でも意見交換しており、可能な限り運営に反映させている。最近、職員の提案により、遅番の職員が入浴を担当することにした。	新任の職員については、なかなか意見も出にくい部分もあると思われる。例えば自分のケアについても不安があるかもしれないので、意見を吸い上げ、OJTをしっかり実施していくことなどが期待される。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境には心配りし、頑張っている方に対しては賞与で差をつけ言葉を添えている。最近勤務時間の変更をし規程を変更した。早番6:15→6:40		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の会議の中では新人が入ると技術面の研修が始まり、緊急時の対応、身体拘束、虐待等中堅の職員も再認識し乍ら取り入れている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	千葉市グループホーム連絡会、花見川区のグループホームの方達とは連絡を取り合い、行事等に呼ばれたり呼んだりして横の繋がりを持っている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	行動・言葉の意味を本人の立場で試行錯誤しながら気持ちを探り寄せ密着して傾聴し不安や訴えをくみ取り信頼関係を築いてゆく。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望に耳を傾け、ゆかりの里での生活、一つ一つ不安を取り除く様な姿勢で入居者同様関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学の段階より、在宅で一番困ったこと、入居してからの不安を聞き、ゆかりの里での暮らしぶり・支援等説明し安心頂けるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者には沢山手伝って頂き感謝の言葉をのべている。時にはここからはお姉さん一人でやりなさい、と言われてたり、大変なときは言ってよ、手伝ってあげるから等……良好な関係である。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	他の家族がきても、お茶を出してくれる入居者です。二度も大サービスをしてくれ驚くこともあります。行事の時は家族会が沢山関わってくれ入居者もそうですが、ゆかりの里でも支えられ感謝しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が大切に思っている宗教関係の方の出入りも自由であり、時にはお友達へも昼食を提供したりして本人より喜ばれている。	家族や友人が訪ねてきたり、電話がかかってきたりする。友人との年賀状のやり取りや絵手紙を送ることを支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃より入居者同士の把握を話し合い状況に応じてお手伝いをお願いしたり、お話の出来ない方には仲間が手を繋いだり常に声かけしたり微笑ましい光景が見られます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	胃漏にて退去された方にはお見舞いに行ったり死去されたご家族もお花見会・クリスマス会と一緒に参加し行き来があります。長期入院の為退去された方にはビーズブチバンドを提供して喜ばれた。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人ひとり思いをくみ取り職員・入居者も支えあいながら少しでも本人の希望に添った生活が出来るよう支援している。	入居者一人ひとりの意向や希望は多様であるが、これまでの生活歴を把握して、引き出すようにしている。表出が困難な人については態度や表情から嫌なこと、嬉しいことを読みとるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご家族やサービス事業者から生活全般情報を頂いている。91歳の方は在宅で畑を借りて耕していることから、ゆかりにおいても畑を提供し草むしり等に精を出している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は一人一人の生活を見守りを、細かい事も見逃さず記録に残し、介護や援助が出来るように努めている。申し送り簿でも書き伝えている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に一度モニタリングをし担当者会議にて決議をし、ご家族の意見を反映させ無理のない楽しい生活を送れるようなプランづくりをしている。	介護計画はホーム独自のシートで作成しており、職員全員で共有している。「担当者会議」には本人や家族も出席しており、意見や要望を聞き、介護計画に反映させている。また、定期的に見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人ひとりの気づき、実践したこと介護記録に記入し職員間意見交換し介護計画を見直ししている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入院時家族の状況、希望等聞いて早めの退院を病院側に伝えたり医療連携体制による点滴等一式を預かりホームの看護師に点滴に受けたり支援してきた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりの豊かな暮らしを楽しめるように自治会への加入、回覧板の受け渡しは入居者のみで行って会話を楽しみにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療は月2回、気になる箇所は事前にFAXにてお知らせし対応している。通院も利用者に応じて支援、ご家族受診については情報提供し適切な受診できるように支援している。	かかりつけ医の受診は、家族の協力を得ながら支援している。協力医療機関からは医師が定期的に訪問しており、緊急の場合もすぐに相談できる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の状態観察で気づいたことは看護師に相談し適切な処置や指導を受け受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関と連携し家族の意向も取り入れて安心して治療できるように、情報交換している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	担当者会議の中で終末期のあり方や要望についてターミナルを意識した介護展開を話し合い、事業所で出来ることを説明し共有している。	ホームはこれまでも看取りに力を入れてきており、指針もある。管理者は今年度、「介護職員等によるたんの吸引等の実施のための研修」を受講中であり、ターミナルケアについて万全の態勢を整えつつある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを整備して全ての職員が対応できるように努力している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	やまびこ推進会議の中で災害を意識した取り組みを消防署の指令長の講演に話を地域の皆様と聴きました。ホームに介護者がいる事を知らせアピールしたり、逆に地域の避難場所として提供する旨お互いに再確認する。	防災については運営推進会議でも議題として取り上げ、地域住民の理解も進んでいる。夜間想定訓練、行方不明者が出た場合の捜索訓練も行っている。	

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心を傷つけないように言葉掛けにも配慮し、認知が進み危険行為が察知できない方には仲間よりも職員が先に気づきさりげなく対応している。	一人ひとり性格も生活歴も違うので、その人に合わせて対応している。個人情報についても管理を徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の自己決定が出来る問いかけや声かけに配慮している。拒否があった場合は無理には進めない。		
38		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の日課は決まっているが、その日の体調・天気・本人の生活リズムに合わせて自由に過ごしている。希望や要望があった場合対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が着替えはするが、好きな衣類は季節に合わないなど本人の好きなものとお洒落、身嗜みが違わず職員は褒めながら自己決定が出来るように配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は入居者も含めて考え好みを取り入れている。他の場所も取り入れたが、介助しやすい所、ここ5年ぐらいは江戸一のバイキングにすっかい馴染み客になっている。	職員と入居者で構成する「食事会議」を開催し、好みなどを聞いて検討している。入居者は配膳、下ごしらえ、盛り付け、後片付けなどできるところで、率先して参加している。職員も一緒に食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々にあった栄養のバランスを考慮しながら食事量・水分量の必要な人には記録に残し、場合によっては高カロリーのエンシュワ缶で補っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科衛生士の指導の元食後の歯磨き、入れ歯の手入れ誤嚥性肺炎にならないように食後の歯磨き、口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は感覚のない人でも自パンツ+パットで誘導し快適な生活となるように工夫している。	チェック表で排泄パターンを把握し、適切に声かけをしている。トイレで排泄することを大切にしており、介護度の重い人も日中はトイレに誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の人が多い、散歩は毎日、繊維質のおやつを取り入れたり、水分量の記入又アローゼン・マグミット服用、それでもでないときはレシカルボン挿入、ラクソ服用、力むことを忘れた人には腹圧又時間をかけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	夏場はシャワー浴を取り入れ最低でも週3回の支援、毎回拒否する方もいるが上手な声かけで洋服を脱いでしまえばゆっくり湯に浸かり喜ばれる。	デイサービスのお風呂を利用して、友達同士で入浴する人達もいる。また、薬湯などにしたり、入浴が楽しくなるような工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は何某か動いているため7:30~8:30と早めの就寝である。最近は湯たんぽ4人の方が使用し眠れない方は今のところおりません。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬については副作用等把握している。遅番が用意し夜勤者が確認チェックし朝食・昼食・夕食はそれぞれの担当が飲み込むまで確認することで誤薬は無くなる。(三人が関わる)		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ゆかりの里ではぬりえ・オセロ・畑・歌・編み物の好きな人それぞれである。失語症の人には一生懸命関わってくれる入居者がおり世話をすることが生き甲斐になっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望には添えないが、皆様散歩・外出も好きである。最近ではワンズモールでのクリスマスコンサートを聞きに行った。いつも出かけたたい人には銀行、精米、買い物にも出かける。ご家族来苑時は外出の連れだしもお願いする。	近隣に公園や農園があり、天気が良ければ毎日散歩に出ている。食材やおやつを買いに、職員と一緒に出かけることもある。	

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	皆様はお金は大切、ご家族には財布の中身を調べて補充してほしい旨話す。入居者は喜んでおり小遣い頂いたと知らせてくれる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人より電話をしたい依頼があればいつでも電話で話是可以。最近では電話の希望者は1~2名又絵手紙を書いたときは家族に投函する事もある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	冬場は採光を取り入れたホールは暖かいが、時間に寄ってまぶしい事もある。テーブルを移動したりしている。	吹き抜けで天窓のあるリビングは明るい。そこ、ここにソファや椅子が置かれ、入居者はおしゃべりをしたり、編み物をしたり、思い思いに過ごしている。カウンター越しのキッチンからは食事の支度を音や香りがして、家庭的である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールに長いすは3脚と藤製のリクライニングが1脚有り仲間同士座っている。テレビを見たりするにはスクール形式が良いが、又窓際に設置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	全室エアコン、こまめに対応し夜間は快適な眠りへと湯たんぽを使用している。使い慣れたもの、お仏壇・ご家族の写真・趣味の作品が飾られている。	可愛がっている人形を飾ったり、仏壇を置いたり、一人ひとりが自分らしい居室をつくれるように、ホームとしても支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホームでは一人ひとりの力量を考え、役割を持っている。家庭的な環境を保ちつつ何度も話し合い建設された。入居者に合わせた手すり・表札等配慮に工夫している。		